Rotary 第2820地区
Tsuchiura South Rotary Club Weekly Report 編集 土浦南RC会報委員会

# 土浦南ロータリークラブ 週報

土浦全国花火競技大会（スターマイン）

会長 伊東 和幸　幹事 説田 賢哉
■ 例 会 場　L'AUBE kasumigaura TEL.029-875-8888
■ 例会日時　火曜日　12:30～13:30
■ 事 務 局　土浦市真鍋 1-2-6 金塚ビル 3F TEL 029-823-4524 FAX 029-869-9006
■ ホームページ　http://tsuchiura-south-rc.com
■ Eメール　t_minami@lapis.plala.or.jp

2022～2023年度
国際ロータリーテーマ
イマジン ロータリー

2022 年 10 月 25 日　10 号
2022 年 10 月 18 日　第 3 例会報告

地区 HP　地区行事予定

1．点　　鐘　伊東和幸会長
2．ロータリーソング斉唱（黙唱）
　奉仕の理想
3．来賓紹介　伊東和幸会長
4．幹事報告　説田賢哉幹事
5．委員会報告
6．ニコニコ BOX の発表　山口裕由副ＳＡＡ
7．来賓卓話
　土浦警察署長 警視　薗部 修様
8．出席状況報告　出席委員会
9．点　　鐘　伊東和幸会長

（司会進行：井坂雄祐ＳＡＡ）

**本日のプログラム**
2018 学年度米山記念奨学生　董然様（現在は，東京工科大学コンピュータサイエンス学部助教）をお迎えします。

**次週のプログラム**
11月 1日（火）の例会は，米山記念奨学生 ファイルズ アルフィラ サイダ サルサビラさんから奨学生としての報告を伺います。

## 出席状況

| 会員数 | 出席数 | 出席免除 | 出席率 | 全員出席卓 | 3 名以上欠席卓 | メークアップ | 出席訂正率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 名 | 名 | 名 | % | 卓 | 卓 | 名 | % |
| 85 | 65 | 4 | 79.27 | 1・2・3<br>8・11・12 | 17 | 7 | 87.80 |

## 【委員会報告】

### 米山記念奨学会委員会　　君　山　　毅　委員長

今月は「米山月間」になっております。今年度も１人，20，000円を目標とさせて頂いております。是非，皆様のご協力を宜しくお願い致します。

### 地区大会について　　楢　戸　憲　一　副幹事

10月30日の地区大会第２日目参加のご案内です。登録８時00分　点鐘９時00分となります。

地区大会会場：つくばノバホール　　大懇親会：ホテル日航つくば

バスの方は集合：８時（出発８時15分）　　場所：L'AUBE（ローブ）駐車場

車でお越しの方は受付が８時からとなり，８時45分までに受付を済ますようにお願い致します。駐車場は25日の例会でご案内し，当日チケットをお渡しします。

## 【来賓卓話】

茨城県土浦警察署長 警視　薗　部　　修　様

本年３月28日付けで土浦警察署長に着任しました薗部修と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

皆様には，平素から警察業務運営各般にわたりまして，多大なる御支援，御協力をいただいておりますことに，この場を借りて厚くお礼申し上げます。

さて，今回は管内の治安情勢ということで話をさせていただきます。皆様には，現下の治安情勢をどのように認識をされておられるでしょうか。

よく「大変厳しい情勢にある」という言葉が使われますが，私はそうは思いません。

犯罪や交通事故は，数字を見ますと劇的に減少をしているのです。警察は，よく「前年に比べ」という説明をします。しかし，ピーク時と比べるとどうでしょうか。

まず，犯罪です。警察では，刑法犯認知件数という指標で説明をしますが，刑法犯とは，窃盗，傷害，暴行等の刑法で規定された犯罪をどれだけ警察が認知したかです。もちろん届出のないもの，暗数もありますが，これは，例年一定程度の割合でありますので，警察の認知件数が目安となります。

昭和から平成にかけての全国の刑法犯認知件数のピークは平成14年です。土浦警察署管内のピークは翌平成15年の6,166件です。しかし，その後は，徐々に減少を続け，令和３年，昨年は1,065件です。実に６分の１にまで減少しているのです。平成15年は，土浦警察署で阿見町を管轄し，一方で，旧千代田町は管轄していなかった。今は，旧千代田町を含むかすみがうら市全体も管轄し，阿見町は管轄していませんので，単純比較はできませんが，いかに減少したかが分かるかと思います。

交通事故はどうでしょう。土浦警察署管内の交通事故死者数は，平成９年の34人が，昨年

は4人です。怪我人のいる人身交通事故の発生件数は，平成13年の2,305件が，昨年は459件です。それぞれ，いかに減少したかが数字上は明らかに現れています。

これは土浦警察署独自の傾向ではなく，県内，さらには国内全体の傾向なのです。

さらに目立つ特徴は，少年犯罪です。これは，県内の数値になりますが，刑法犯で検挙された少年は，平成9年の3,325人が，昨年は158人。実に20分の1にまで減少しているのです。数字上減ったという認識はありましたが，土浦警察署長として着任して，それを肌で感じます。平成9年当時，私は水戸警察署で少年係長をしていました。連日のように非行少年グループによる恐喝，傷害事件が発生していました。しかし，そのような事件が，私が着任して以降，土浦警察署管内で発生していないのです。少子化だけでは説明しきれない減少です。

なぜこれほど減ったのか。

まず，犯罪です。県内全体の数字での分析ですが，犯罪で最も多いのは，泥棒，窃盗です。その中でピークに比べ，最も減ったのは，自動車内の物を盗まれる車上ねらい。次が自転車盗，3番目が自動販売機ねらい。4番目がオートバイ盗です。

車上ねらいに関しては，車の所有者等が，車内に現金等の貴重品を置かないようにした。それにより，車上ねらいが割に合わない犯罪になり，車上ねらいを常習的に行う犯罪者が減ったのではないでしょうか。

2番目，4番目の自転車盗，オートバイ盗に関しては，皆さんお気づきになることはありませんか？駅前等での路上駐輪が減ったと思いませんか？かつては，駅前等で路上駐輪をよく見かけました。しかし，市町村が駅前に駐輪場を整備するなどして，管理された場所に駐輪することが多くなったからではないでしょうか。

3番目の自動販売機ねらいについては，自動販売機業者が，コインメックと言われる現金を収納しておく部品の強化や電子マネー対応にするなどの工夫をして，防犯性能を向上させたからではないでしょうか。

次に交通事故です。交通死亡事故や人身交通事故の減少ほどには，死傷者がなく，自動車等の物だけが壊れる物件交通事故の減少は，減り幅が少ない。このことから言えるのは，自動車の安全性能の向上。かつて，昭和の頃には，シートベルトを付けるか付けないかをテレビで議論をしていることすらありました。今はそのような議論はなく，エアバッグ，衝突軽減ブレーキも標準装備が進み，さらには，サポカーと言われる事故を起こしにくい自動車も登場しました。

医学の進歩もあるでしょう，以前であれば，死亡事故になるような怪我でも，救急治療体制が整備され，死に至ることがなくなった。

少年犯罪は，少年が，屋外，実空間で行動するのではなく，ネット空間で行動をする，遊ぶということが増えた。少年の行動様式が変わったことが大きいと思います。

かつて，駅周辺やコンビニで少年グループがたむろしているのをよく見かけました。しかし，今はあまりそのような光景は見ないようになったのではないでしょうか。

少年非行の減少は，日本の将来を担う青少年の健全育成の観点からな望ましいことだと思います。

このように，治安情勢は大きく改善されています。しかし，それなら万々歳かというとそこまでは言い切れません。

少なくなったとは言え，犯罪は発生しています。本県で特に懸念されるのが，自動車盗，住宅侵入窃盗が多いということ。そして，ニセ電話詐欺が高止まりしていることです。

交通死亡事故は減少しましたが，高齢歩行者が亡くなられる交通事故は，あまり減りません。先ほど話したように，車の中に乗っていれば，なかなか死に至ることはなくなった。しかし，歩行者は自動車の安全性能の向上の恩恵を受けにくい。高齢者は医学の進歩の恩恵も受けにくい。

さて，ピークに比べて大きく減少した犯罪や交通事故をさらに減らしていくためには，どうしたらよいのでしょうか。

私は，犯罪や交通事故等の悪い出来事を減らしていくためには，自助，共助，公助の組合せが重要だと思っています。

少し話を戻して，犯罪が減ったのは，自動車内に貴重品を置かないようになった，駐輪場に駐輪するようになった，自動販売機の防犯性能を向上させたと話をしました。これはすべて，被害に遭わないための自助努力です。

一人一人が犯罪被害に遭わないように自助努力をすることが重要です。

本県では，自動車盗が多い。しかし，本年は，中古自動車販売店で，一晩に何台もの展示車が盗まれる事件が多発しています。そのような事件では，それぞれの車内に，サンバイザーの裏などに，その車の鍵が置かれていたのです。鍵は別な場所で管理する自助努力はできないのでしょうか。

住宅侵入窃盗では，被害の半分が無施錠のドアや窓から侵入されています。小まめな鍵かけだけでも，被害を減らす効果が見込まれます。

加えて，自宅への防犯カメラの設置等も有効です。普及とともに価格もどんどん安くなっています。

交通事故でも，歩行者であれば，付近の横断歩道があれば，遠回りになっても横断歩道を渡る。夜間に歩くときは，反射材を身に付けるといった自助努力も重要です。

このような自助に加えて，共助。

刑法犯認知件数がピークを迎えた平成14年，15年頃から急に増えた存在があります。防犯ボランティア団体です。今，青色防犯パトロールという青い回転灯を付けた自動車による警戒活動や夜間の自警団による警戒等。ご近所の人たちによる散歩しながら，庭仕事をしながらの「ながら見守り」，宅配事業者等による配達しながらの「ながら見守り」。これらの活動が共助です。

交通事故抑止であれば，児童生徒の登校時の保護者持ち回りでの立哨活動等。

そして最後は公助です。

先ほど話した駐輪場の整備も，市町村が行えば公助です。そのほか，市町村では街頭防犯カメラの設置を進めています。かつては，市民を監視するのかとの反対論もありましたが，犯罪や事故の抑止効果が国民の理解を得るところになり，今では，街頭防犯カメラへの反対論はほとんど聞かれません。

交通事故防止のためのガードレールの設置や道路構造の改修も公助です。

もちろん，警察による警戒警らや事件検挙も公助です。

今，警察捜査の現場では，防犯カメラと動く防犯カメラと言われるドライブレコーダーが検

挙に向けた重要な武器となっています。

ドライブレコーダーは，交通事故に遭遇してしまった際に，どちらに落ち度があるかすぐに分かります。先ほどの防犯カメラの設置と合わせて，もしまだという方は検討していただければ幸いです。

皆様の自助の参考になる情報が県警ホームページにありますので是非一度，茨城県警でネット検索頂ければ幸いです。

最後に，安全と女心という観点で話をします。犯罪や交通事故を減らすことも重要ですが，同時に安心感の改善も不可欠です。安全安心と言うようにセットで語られますが，必ずしも一致しません。

本日，いかに犯罪や交通事故が減ったかを話してきました。間違いなく安全になっているのです。しかし，安心はどうでしょう。茨城県では，県政世論調査，令和2年からは名前や調査方法を変えて，ネットリサーチという県民の意識調査を年1回継続して行っています。

治安情勢の観点では，県内の治安が悪くなっているかどうかの問に対しては，平成15年に回答者の77.3%が悪くなっていると答えていましたが，昨年はその層が20.9%にまで減少しています。県民の皆さんも，犯罪や交通事故が減っていることを肌で感じていらっしゃる結果ではないかと思います。

一方，犯罪や事故に遭う不安を感じるかの問いに対しては，平成15年の83.1%がピークなのですが，令和元年まで80%前後で推移しています。令和2年からは60%台に落ちたのですが，これは調査方法の影響かもしれません。昨年は66.5%であり，高止まりしている感があります。

安全になっていることは分かるが，安心感は改善しない。これは，全国共通の傾向で，安全と安心の乖離と言われています。

犯罪や交通事故を減らすだけでは，安心感は改善しないことが分かりました。だから，少しでも安心していただけるよう，私は，犯罪や交通事故がどれほど減ったかを強調することとしているのです。

そして，最後は，県政世論調査やネットリサーチでの「県警察に最も力を入れて取り組んでほしいこと」の回答のトップは，「地域のパトロールの強化」です。調査開始以来不動の1位です。

これが，県民の願いなのだと思い，私は，土浦警察署員にも常に「パトカーをできる限り目立たせろ，制服の姿を見せつけろ」を指示しています。

管内住民が少しでも安心感を持ってもらえるよう，土浦警察署員一丸となって取り組んでまいりますので，引き続き，皆様の御支援，御協力をよろしくお願いいたします。